南あわじ市社会福祉協議会

ボランティアセンターだより

2023年4月　No. 173号

工作ボランティア紹介

この三角ブロックの舟をどこかで見かけたことはありませんか？
これは、ミニデイサービスで作った事をきっかけに、舟づくりを始めた大正生まれのご婦人西岡妙子さんの作品です。「今まで畑仕事しかしてこなかったけれど、この舟に出会ってからは、毎日の生きがいが出来た」とおっしゃっています。

その作業は朝起きてからすぐに始まり、畑仕事の合間にも取り組んでいます。サロンや、社協のイベント、施設でも「この舟見たことあるわ」「誰がつくったの？」「上手やなー」と、持っていく所々でいつも喜びの声が聞こえます。「もう年だし、やめようかと思うねん」と、話すこともありましたが、「やっぱりこれせんと具合悪いわ！」と、まだまだ頑張っています。

みんなに喜んでもらえることが自分の喜びになっているようです。舟はこれからもみなさまの元へとつながり続け、淡路だけでなく島外をも巡る旅に出るでしょう！あなたのおうちにも届くかもしれませんね。

NEW レクリエーション資材のご案内

卓球バレーの用具を貸出します

卓球バレーとは、1チーム6人ずつで卓球台をかこみ、バレーボールのルールでできるユニバーサルスポーツです。高齢の方から子どもまで椅子に座ってする競技なので、障がいの有無、年齢に関わらず誰でも一緒に楽しむことができます。興味を持たれた方は社協までお問い合わせください。

【貸出用具】
・専用ラケット　・ボール　・ネット
（卓球台の貸出は行っておりません）

ボランティア保険のご案内

活動中の事故やケガに備えて、安心してボランティア活動するために、保険の加入をお勧めします。

①市民活動災害共済	②活動等行事用保険
掛金：年間500円／年間	掛金：50円／1人 1日20人以上必要

阪神・淡路大震災の被災地から トルコの地震災害の被災者にご支援を!!

みなさまの温かいご支援をよろしくお願いいたします。

南あわじ市社会福祉協議会の窓口でも募金箱を設置しております。

発行　南あわじ市社会福祉協議会　ボランティアセンター
〒656-0122　南あわじ市広田広田1064
TEL：44 - 3007　FAX：44 - 3037
Eメール：info@minamiawaji-shakyo.or.jp

生活支援コーディネーターだより

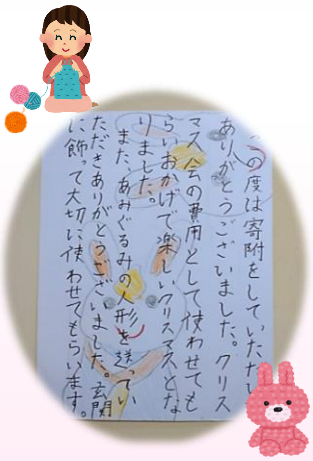
2023. 4

灘　～おばちゃんタイガーマスク現る～

灘地区油谷にある長谷寺のご住職が、神戸の児童養護施設を訪問した時のお話です。

「これでお墓が建てられる？」と女の子から差し出された巾着の中には、300円ほどのお金が入っていました。施設でお手伝いをして貯めたお金だそうです。「できるよ」と答え、その巾着を女の子の手に戻しました。その代わりに、小さくなった女の子のお父さんとお母さんを預かり、自身のお寺に持ち帰って手厚くお祀りをしているそうです。

住職のこの話に心打たれた『灘なでしこサロン』のお一人が、「私たちにも南あわじの子どもたちに何かできないかな？」とサロンのメンバーに話を持ち掛けたところ、「自分たちが編んだ作品を販売して得た収益金をクリスマスに合わせて寄付をしよう!」と、みんなの気持ちが一つになりました。



嬉しいお手紙がとどきました

みなさんは、編みぐるみ、帽子、マフラー、座布団、セーター、ベスト…を編み貯める日が夜な夜な2か月ほど続いたとのことです。「あの時ばかりは、どんな風に過ごしたんか覚えてないわ!!」「かぎ針持ったまま、うたた寝してたわ」「ようやったよな」と、しみじみと思い出されていました。

作品は、美菜恋来屋で販売し、クリスマスまでに児童養護施設「淡路学園」にかわいい編みぐるみも添えて寄付をお届けすることが出来ました。

『灘なでしこサロン』は、灘の公民館の前にあるお好み焼き屋の安田さんの編み物の腕にほれ込んだ人たちが店に集まり、編み物をしながらおしゃべりを楽しんでいるサロンです。“自分たちの得意が誰かのためになるとてもうれしい事”だと、仕事の合間に集まっています。

昨年のクリスマスにも2回目のお届けを終え、「私たちは遅掛けからのボランティアだけど、10回は続けたいと思う！」と、今から8年後に目標を据えていました。

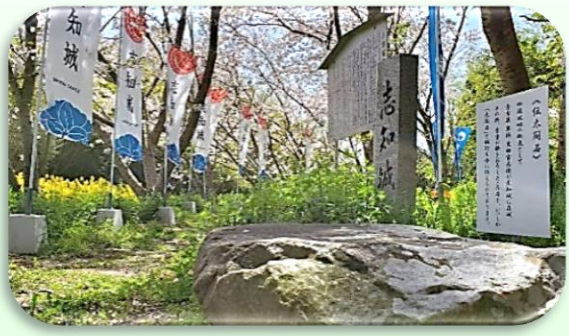
～みはら福祉のつどい～

2月12日　榎列公民館にて、地域福祉フォーラム『みはら福祉のつどい』が開催され、三原志知城跡地の取り組みについてお話を伺いました。

志知マルナカの県道を挟んだ向かいに、たくさんのソメイヨシノの木があります。ちょうど今、桜の花の見頃になっています。

ここは遡ること鎌倉時代の初め、菅和泉道忠によって築城された志知城の跡地です。NHKでおなじみとなった黒田官兵衛が、大公秀吉の命により預かり納めていた時代に、秀吉が座ったとされる石も存在しており、現在はお堀だけが残った城跡ですが、この歴史ある地を何とか公園にしたいと『三原志知地区　志知場を守る会』のみなさんが尽力されています。

もともとこの桜の木は、会の代表を務める関口功さんのお義父様が、30年ほど前にこの地の公園化に向けて植樹されたものだそうです。それから年月を経て、現在は会のメンバーが取り組まれている最中です。歴史ある地が地域のみなさんの憩いの場となるよう、今年も桜が明るく迎えています。



今年のお花見に
いかがでしょう
(*’▽’)